（大正九年七月十一日第三種郵便物認可）
大正九年九月十五日　京城日日新聞　水曜日　第七十三號　（一）

年中無休刊
京城日日新聞

殖民地概説（三）

拓殖局編

第六章 殖民地の産業

第四節 水産業

戰後の歐米（四）

木村雄次

米國の對外投資能力（上）

倫敦タイムス所載

一日一人（四八）

ヒマラヤ山人

生田商工課長

北樺太より

熱光の下を（七）

曉谷

魔手八方に伸ぶ

秘密委員既に各地に潜入　恐るべき過激派の宣傳

[illegible]の宣傳は益々盛んにして……ウランゲルに對し飽迄戰爭を遂行し……めんとし……政府代表者及秘密委員を……(三)……印度及支那日本米國……に對する攻勢を再開し……(五)……支那日本等には秘密委員既に入れる所あり又……(東京來電)

伊國危機に頻す

罷業參加者五十萬人

……罷業の形勢……將來の不安を思はしむ……ミラン市に……戒嚴令を布ける……數は僅に五十萬人を……政府はミラン市に……(倫敦來電)

英獨競爭に酷似

日米問題更に紛糾乎

……日米兩國の衝突は兩國の妥協に依りて一時多少緩和を見るべきも斯の如き妥協は畢竟一時的現象にして日米兩國の競爭は恰も歐洲大戰前に於ける英獨競爭に髣髴たるものあり……商業的競爭のみならず日本人排斥に基く人種問題に因りて更に一層紛糾を加へつゝあることとなり而して今や極度の忍耐を以て妥協をするに非ざれば到底兩國間の暗流を一掃する能はざる狀態となれり(シドニー來電)

反過激援助に一致

……且つ之と交渉を開始す……全歐政府として承認し……(東京來電)

露波講和豫備會議

……開會すべし(巴里來電)

獨逸社會黨活躍

……內閣は今秋季中危機を見るに至るべしと觀測さる(巴里來電)

國際會議の雲行

……國際會議の……開催せらるゝ……(東京來電)

赤都莫斯科近狀

勞農露國は今や漸次建設の時機に入りつゝありと雖も……莫斯科の人口は目下三十萬內外に減少し木造の家屋の多くは燃料に供せんが爲め破壞せられたりと雖も……

(二)電車は中央通りのみを往復し……

(三)物資の缺乏著しく子供は跣足なるを例とし婦女にして靴下を穿つもの稀なり又パンは勞働者一日一斤勤務員四分の三斤其他の者は一日半斤の購買權を有するのみと

(四)レニン、トロツキーの反目漸く加はり彼の文治派のレニンと武斷派のトロツキーとは各一派をなして相對峙するの傾漸く色彩を濃め來れりと(東京來電)

蒙王獨立交渉說

非公式の報道に依れば蒙古新王等は新に獨立を企てセミヨノフ將軍と交渉を開始したり(哈爾賓來電)

極東統一に傾注せよ

我軍撤退の宣言

最近我軍のザバイカル撤退及ツエルフ[illegible]使節派遣等の問題に關聯し……シスローウオ及ルスキーゴロスの兩紙は筆鋒鋭く日本を誹謗しつゝあり……露西亞人一部の心理を穿ちて……日本は露西亞の速かなる復興を企劃し……せられ政府安定するに至らば日本は即ち即時撤退するに躊躇せざるべし……極東統一事業に全力を傾倒するの緊急なることを敢て兩紙に告ぐ

福州事件更に紛糾

福州事件に關し日本公使に對し速かに福建民心を鎭靜せしむる爲に日本人首魁の處罰を求め來れる爲め事件の交渉上更に新問題起れりと(北京來電)

僭稱政府愈窮す

上海僭稱政府は常に內訌あるも最近幹部に激烈なる暗鬪を生じ爲に不逞宣傳の機關紙所謂獨立新聞も先月末より發刊の狀態にありと(上海來電)

雲南硬論主張

天津會議開催の結果全國軍事會議開會に決定せり(北京來電)

軍備會議開催

南北和議促進に對し雲南方面に強硬論を唱へ居れり(北京來電)

劉少將の東上

中華民國海軍少將劉華式氏は……一名を從へ十三日朝入港の……船にて下關に上陸直に東上せり……(下關來電)

支那墨國公使

……總統令にて王繼曾氏を墨西哥兼キユバ公使に任命されたり

大饑饉の救濟

十一日夕北支那大饑饉に關し總統令にて內務財政部に地方長官と協力し災禍を救ふ可きを飭令せり(北京來電)

憲兵復活問題

先づ國境增派

朝鮮の現狀に鑑み憲兵復活說……の間に問題となり居れるが新制度實施以來幾許も無きに今遽に之を復活するは輕卒の譏を免れず……兵隊にある教育生の卒業するを俟ち若干部隊を派り最も危險なる國境地方の治安維持に當らしむ可しと(東京來電)

地方官々制改正

地方官々制改正の件十四日の官報を以て公布さる(東京來電)

鮮鐵經濟大縮少

最近に於ける鮮鐵經營狀況を聞くに經濟界不況以來鮮鐵の蒙りたる損失は鮮少ならざるを以て自然從來の經營方針を一變するの必要を感じ……

財務局側よりは河內山局長の外林司計課長等も出席來年度豫算編成方針及査定方針等に關する說明の任に當りたり

鮮銀移管問題

吉田鮮銀理事談

東電の傳ふる如き朝鮮銀行の監督權が總督府より大藏省に移管せんとの說今日迄屢傳へられたる所にして昨今に始まりたる問題にあらず鮮銀としては其監督權が大藏省にあると總督府にあるとによりて營業方針に格別の相違を見出し難し……

本府豫算會議

總督府にては本日午前九時より第一會議室に於て定例局長會議を開き總督政務總監以下各部局長出席の上來年度豫算案を附議したるが

府尹郡守會議

京畿道廳にては今十四日より二十日迄管內府尹郡守及庶務主任を召集し工藤道知事統裁の下に午前八時三十分より午後四時迄會議を催すこととなり……

七九聯隊特別射擊

步兵第七十九聯隊にては目下大隊射擊を實施しつゝあるが來る十七日午前八時より射的場に於て聯隊特別射擊を實施すべしと

辭令（九月七日附）

本府遞信事務官　島田志郎
任朝鮮總督府事務官　敍高等官二等
遞信副事務官　山本龜太郎
任朝鮮總督府遞信事務官　敍高等官五等
朝鮮總督府參事官
任朝鮮總督府遞信事務官　髙橋利三郎
同
敍高等官六等

遂に議案を撤回す

平壤公會堂問題に亞ぎ商議

議事錄不調印問題新に起らん

……議長は役員諸氏と謀つて決すべしとて……

押問答

契約書

抵當權設定の必要上斯の如き決議を致てせるもの

……第三回全鮮商業會議所聯合會に提出すべき議案として

一、商業會議所令改正の件
一、產業政策樹立の件(工業專門學校設立請願を含む)

……

入江領事歡迎

入江領事一行は十三日夜八時著任地に入るや……

明治神宮々司

……(東京來電)

首相山公訪問

……(東京來電)

髙橋博士敍位

(東京來電)
敍正四位　從四位勳二等　法學博士　高橋作衛

浦鹽新輸出法令

婦人と生活改造

法學博士　森本厚吉氏講演

我國の實力

茶漬生活の

獨り男子の

無味乾燥な

此の現智的

五尺の男子

戶口調査訓練

京城府にては左記日割を以て臨時戶口調査從事員の訓練を爲すべしと

▲十五日午後三時　水下洞公立普通學校調査從事員百三人訓練者府書記田中幸輔
▲同日同時　於義洞公立普通學校調査從事員八十三人訓練者府吏員鬼塚尙熊
▲同日同時　龍山公立普通學校調査從事員五十一人訓練者府書記岡田榮
▲十六日午後三時　梅洞公立普通學校調査從事員百二十八人訓練者府書記田中幸輔
▲同日同時　美洞公立普通學校調査從事員六十八人訓練者鬼塚尙熊

篤行者表彰式

京畿道廳にては明十五日午前九時道廳會議室に於て施政十年を機とし管內に於ける產業教育慈善事業等の功勞者及篤行者の表彰式を行ひ工藤知事より表彰狀及記念品を授與する筈なるが其氏名左の如し

楊州郡…面	々長	[illegible]氏
長湍郡…面	々長	兪能濬氏
水原市松山面	々長	洪蓮厚氏
驪州郡北內面	々長	曹錫永氏
同郡大神面	書記	朴準弼氏
江華郡松海面	々長	高成根氏
開城郡大聖面	長	李鍾淳氏
同郡松都面	池町	金負憲氏
楊平郡靑雲面	同	李萬鍾氏
廣州郡大旺面		鄭錫謨氏
京城府南山町二丁目		山口太兵衛氏
同觀水洞		孫昌熙氏
仁川府々內里		丁致國氏
振威郡北面鳳南里		具滋喜氏
高陽郡龍江面東幕上里		高允默氏

龍山公設市場開期

龍山京町筋に新築中なりし龍山公設市場は此程竣成十四日より開業の筈なりしも準備未だ整はざる爲め二十日より開業する事となれり

水蔘收納期日

大正九年度水蔘收納の期日及場所を左の通り決定されたり

期日　自九月十五日至十月十五日
場所　財務局專賣課開城出張所

爲替貯金受拂狀況

京城郵便局に於ける八月中の爲替貯金受拂狀況を聞くに其の受入に在りては內國爲替十四萬五千六百九十七圓外國爲替千五百九十三圓振替貯金二十七萬千八百四十二圓郵便貯金三萬五千八百三十四圓遞信官署歲入十一萬三千二百二圓府公金受入八十圓此の受入總額五十六萬八千二百四十八圓に上り之を昨年同期の五十九萬六千百三十七圓に對比するときは二萬七千八百八十九圓を減す又其拂渡しに於ては內國爲替三十萬五千八百四十五圓、外國爲替二千九百十一圓、郵便貯金三萬四千五百十一圓、振替貯金百七十六萬九千九百六十七圓遞信官署歲出五萬四千六百二十二圓此の拂渡し總額二百十六萬七千八百五十六圓を算し之を昨年同期の二百八十五萬七千百五十四圓に比するときは六十八萬九千二百九十八圓を減じたり以上の外運輸爲替資金等の出納額を加算せば昨年八月分七百二十一萬四千三百七十五圓、本年八月分五百八十八萬一千三百十圓にして通計百三十三萬三千六十五圓を減ぜり

京郵交換拂渡

京城郵便局八月中の京城手形交換所に於ける交換拂渡狀況を聞くに內國爲替二十一萬四千四百十一圓外國爲替四百四十六圓振替貯金百五十四萬五千五百六十圓此の拂渡總額百七十六萬四百十八圓其の取扱口數一萬一千五百八十三口にして之を昨年同期の百二十四萬四千六百三十七圓取扱口數一萬五千百八十口に對比するときは金額に於て五十一萬五千七百八十一圓を增加し口數に於て三千五百九十七口を減ぜり

何等の

一平元鐵道速成に關する件
二滿鮮直通運賃布設の件
等を可決せるが久保條例議員より近來の商業會議所が殆ど仕事を爲し居らざる例を擧げ注意を促す處あり最後に久保議員より議事錄不調印問題に就いて質問するや議長は用事に藉口して議場を退出し遂に有耶無耶の裡に散會するに至りたり

軍司令官登廳

大庭軍司令官は十四日午前十時軍司令部に登廳樓上に於て高等官以下職員を引見し着任の挨拶を爲せり

古賀長官來期

目下滿洲視察中の古賀拓殖局長官は十九日安東發京城に向ふ豫定なりしも二十日午後五時安東發二十一日午前六時五十分南大門着に變更さる

人事

▲英人女畫家ミス、キイス孃は目下朝鮮ホテルに滯在し府內各地の風景を寫生しつゝあり
▲ジーエスフエルプス氏（萬國青年會會員東京日本基督教青年會名譽主事）十三日入城四五日間滯留の筈
▲ドツツ氏（英國大使館附記官）十三日朝入城十四日朝出發支那へ
▲木村昌作氏（新任京城郵便局電話係長遞信技師）は家族同伴十三日夜入城
▲岡本大尉　二十門聯隊副官十三日着任

風塵錄

▲遠來の珍客として日本を訪問せし米國議員團の一行は愈去十三日解纜の途に就いたが彼等は日本朝野の歡迎には大に滿足の意を表して居るらしいが米國排日案に對する日本の反感に對しては其れ程同情を表しては居ないらしい、日本は支那人や朝鮮人に對して差別的待遇をして居るではないか、米國が日本人を歐米人と差別して取扱ふのは無理はあるまいと云ふて居つたものもある、區別あるものを區別あるものと考へて居るから話にならぬ▲同一行中のホールと云ふ男は出立前から大阪時事に日本に對する所感を發表して居るが、其文中には日本が吾々米國人に對して朝鮮の排日的運動を成る可く立入らすまいと努めた事は愚である、朝鮮でも我々と朝鮮人との接觸を妨げたが東京でも朝鮮人や支那人と我々一行の接觸を妨ぐることに努力したのは誠に可笑い譯であると語つて居ると云ふ▲殊に同一行中のヘーズマンと云ふ男が京城滯在中基督青年會の招待で演說に出掛けると演說をせない前から解散したのは不都合であると罵つて居る▲朝野の歡待を受けて居る日本滯在中是であるから彼等が米國に歸つたら何と言ひ出すか判つたものでない、其實は日本の官民は斯う云ふ筈では無かつたが、米人も口と腹とは大分違ふワイと失望するであらう。

株式界

……京株市場も僅かに一日二日で昔の京株の……

……それは一面當事者の責任と誠意を疑ふものである

十四日大阪入電前寄

大株	一二四、六〇
大新	一一三、九〇
郵船	一一九、九〇
同新	五八、一〇
商船	七四、〇〇
鐘紡	二二六、一〇
同新	二〇五、〇〇
東糖	―
上取	四八、六〇

十四日算定値段

京取	一九、〇〇
東殖	五〇、〇〇

京株市場出來値（十四日）

銘柄	前場	後場
京取引寄	一八、九〇	一八、九〇
同	一九、〇〇	一八、七〇
殖新	―	―
東新	―	―
拓新	―	―
東亞新	―	―
仁取	―	―
鮮銀	―	―
殖新	―	―
同新	―	―
實銀	―	―
商銀	―	―
同新	―	―
朝銀	―	―
同銀	―	―
漢城	―	―
東拓	―	―
信託	―	―
朝紡	四九、六〇	―
滿手	―	―
京電	―	―
鮮新	―	―
瓦電	―	―
電興	―	―
朝燐	―	―
東亞	―	―
朝鉱	―	―
朝鐵	―	―
西鮮	―	―
同新	―	―
南鐵	―	―
同新	―	六、五〇

出來高
十三日後場・十四日前場　合計　八五〇株
累計　三四、九八〇株

仁川期米特電
九月十四日前場
當限　中限　先限
(一節～三節　寄・止・高・安・引値 [illegible])

仁川米豆取引所仲買人　各仲買店
電話二一〇五番

九月十四日後場
(一節～五節　寄・止・高・安・引値 [illegible])

京城府旭町三ノ九　土岐賢一商店
電話二二四〇番・二九七番

東京期米特電
九月十四日前場
當限止め　二十七圓五十一錢
中限止め　二十七圓七十一錢
先限止め [illegible]

大阪期米特電
九月十四日前場
當限　中限　先限
一節～四節　二七、九四　二七、九五　二八、〇九 [illegible]

京城株式現物取引市場仲買人　犬島商會
京城府黃金町三ノ一　犬島新作
株式及信託取引市場專用　電話二一六八番

九月十四日後場
一節～十節　二七、八九　二八、〇五　二八、〇〇　二七、九八　二七、九五　二七、八六 [illegible]

一年中の滞京の教訓は「口は禍の基だ」

ご時局談を巧に避けて宋子爵入城

線香花火と同じ様な中央政府の朝鮮問題 「内部の秘密は眞平御免」 ご例に依つて瓢箪鯰

昨春五月出發約一ケ年半東京に滞在し種々日鮮間の諸問題に就き東奔西走して居たる子爵宋秉畯氏は既報の如く十三日朝釜山乘車同夜の急行列車に搭乘して歸城せるが當日釜山迄出迎へたる警部一名付き添ひ縞セルヅボンに黒アルパカの夏衣を着し途中一切の出迎へ面會を避けつゝ頗る微行にて午後八時南大門驛着驛迄出迎へたる令息と共に自動車に便乘直に自邸に入れり。

「口は禍の基だからね」と前提して一年中の東京生活に肥滿した宋子爵は往訪の記者に語る。「内地に於ける朝鮮問題?そんな事が俺に判るものか、

時局問題を主張した處で

朝鮮には總督並に政務總監と言ふ人がある、俺等の如き者の主張が貫徹さるゝ譯もない筈だ」とて巧に時局談を避け「まあ中央政府並に内地に於ける政治家諸君も朝鮮問題等は

全然頭に 置いて居ない

様だ、何か事件の起つた當座は種々議論もし研究もするが三日も經たぬ間にケロリと忘れて終ふ、要するに線香花火式とでも言ふんだらうね、まあ、所んな事も俺等の口から云ふと又問題になるから御免を蒙らう、一年中の東京滞在が俺に與へた一つの教訓は即ち『口は禍の基ゐ』と言ふ事だ何事も口から出すと一々問題になつて煩くて仕様がない之が爲一部有識者の面會をも御免蒙つて居る様な有様で俺の東上も此度の歸京も

何等政治的意味の含まれて居ない

事は事實である、まあ暫く振りで一度京城に歸つて見たくなつて突然歸つて來た様な始末だ」と語り、「子爵も政務總監候補者の一人ではないか」と反問すれば「政務總監!それも面白からう、命令であれば大いにやるさ、然し他の朝鮮問題に對する

意見主張

も總監にでもなつてからでなければ御話しも出來ないさ」とカラ〳〵と快活に笑ひ「總督政治に對し内鮮人の了解ある新聞でも經營しては如何です」と言ふ記者の問に對し「サア新聞も面白からう然し金がないよ」「忠北の土地をお貰ひになつて大分入つてる筈ですが」と反駁されて「そんな内部の秘密を話しちや困るよ」と體を搖すつて豪傑笑ひで巧に煙に卷きサツサと下車の準備を始めた。

支那に赤衛軍

巧妙な過激派の宣傳と活躍

最近ウエルフネにて發布せられたる共産黨宣傳文は支那に於ける彼等黨員活躍の状況を次の如く記せり イルクツクより支那南北各地に派遣せる宣傳者は支那人中の青年にて新智識階級者多數同志を結束せしめ之等と關係を結びボルセビズムに關する各國の書籍を發行し之を勞働者及青年等に頒布せしめつゝあり北京地方の牛耳を執り居たる某博士は之等同派の者の間に非常の勢力を得居しが最近北京政府より放逐せられ彼等は豊富なる資源を有し中露赤衛軍なる者を露國の組織に倣ひて編成すべく軍隊中にも旺に宣傳しつゝあり又彼等の中には日本に留學せるものありて之を通じて日本の無産階級にも漸次手を延ばしつゝありと(北京來電)

釀造品評會

準備着々整ふ 盛會の豫想

來る十月中旬を期し開催せらるべき釀造品品評會に關しては目下總督府商品陳列館に於て着々準

聖上全く御快癒

大演習行幸は中止

日光田母澤御用邸に駐輦中なる聖上陛下には來る十六日還幸仰出されたるは既報の如くなるが聖上陛下には御還幸以來御病氣は殆ど御快癒あらせられたるも今秋大分縣下を中心として行はるべき陸軍特別大演習には行幸あらせられざる旨田中陸相上京謁見の際仰出されたり東宮殿下には總監部附として東京に非ず御見學として行幸あらせらるゝ筈なりしと大演習統監は特命を奉じて上原參謀總長之に當るべしと(東京來電)

軍艦榛名の椿事

砲筒内に破損を生じ多數の死傷者を出す

東伏見中將の宮は御安泰

海軍省發表 軍艦榛名は十二日午後五時村田岬西岸に於て射撃中砲筒内に破損を生じ死者濱田邦雄(海軍大尉)以下四名重傷者青木兵曹長以下九名輕傷者二名を出せり

(別報) 椿事を惹起せる第二艦隊旗艦榛名には東伏見中將宮殿下座乘せられありたるが右椿事に關しては宮邸にも急報あり殿下には御無事にあらせらる

出品 陳列

[illegible]

下關の鮮人取締

水草を趁うて走るやうな勞働者 「政治等は解りませぬ」 稲井警部の談

朝鮮内に於ける不逞鮮人取締嚴重を極め到底事を擧ぐるを得ざるより彼等は内地に於て何事か畫策せんとする形跡あるより内地に於て取締を嚴重にすると共に名古屋其他の要所に於ても一層警戒を嚴にし居れるが下關警察署管内の

約一千名

の鮮人勞働者あり其の中約三百名は下の關等に於て關釜聯絡貨物運輸に從事し居れるが不逞鮮人は無智なる彼等を騙つて渦中に捲き込むなきやの懼れあるを以て下關署にては相當警戒を加へつゝあり右につき稲井警部は語る「下關署管内に於ける鮮人は全部勞働者にて眼に一丁字なき者多く隨つて煽動され易き

可能性を

有するも夫だけ水草を趁うて行く頭でであるが九州に於ける勞働中心地たる八幡市には約三千の鮮人勞働者あり殊に其の中には高等普通學校卒業等の相當有識者も多くあるので警察署とも打合せしてゐるが何分彼等は水草を追ふて移り變るので却々取締上困難である下關通過の鮮人學生に對し時折朝鮮は

獨立し得

ると思ふやと質問するも彼等は言ひ合はした如く一様に政治の事は分りませぬと答へ決して獨立不可を答へたるもの無しと(下關來電)

琿春を襲撃す

馬賊の大集團

亂射亂撃市街を蹂躙し 燒失戸數四百死傷多數 放火掠奪の後悠々引揚ぐ

十二日午前五時黎明に乘じ朝鮮を距る廣東省琿春の東門外に約五百名より成る支那馬賊の大集團現れ支那人部落を襲撃放火すると共に旺に發砲し彈丸雨下の間に掠奪を行ひ午前八時半までに約四百戸を燒失せしめ大混亂を惹起し阿鼻叫喚の中を馬賊に掠奪品を馬車七臺に滿載し悠々として引揚げたるが支那官兵は目下是を盛に追撃中なり又該火災の爲住民の死傷者約三十名を出したるも内地人には被害なし此火災は遠く咸鏡北道慶源より望見し得たりと云ふ尚今朝日本領事館よりの要求に依り慶源警察署より警部一名をして巡査四十名を引率せしめ同地に向ひ急行せしめたり

漢川の不逞青年團

拳銃を手に入れんと腐心中 一網打盡的に逮捕さる

平南不良部漢川に於て青年團なるものを組織し獨立資金を募集せる一團あり同面長にも出金を迫りたるに却つて種々と不心得を諭され青め事の發覺を恐れ裏面に暗躍せるかの如く裝ふて某筋に自首し出でたるも同事務に不審の點あるより嚴重に監視中果然彼等は地方を廻り幾何かの金品を詐取せるも漸石に於ては既に事を知られて都合悪きより彼等が上海假政府の交通部と稱する平壤の一味と相談し特に派遣されたる奥行郷なる者と同道漢川に引返し鄕所に於て資金の募集を爲したるも當道に必要なる短銃なき爲め思はしき仕事も出來ず何とかして短銃を手に入れんと腐心せるを探知したる平壤署は此程金警部以下一隊の警官を急派し一網打盡的に大活動の結果遂に隊長以下十八名を珠數繋ぎにして引致中(平壤)

八十四縣飢に泣く

酸鼻を極むる北支那の飢饉

直隸山東河南の飢饉は日を經るに從ひ極めて鐵道附近の多くの住民は關外に逃れ飢餓者及避難民の數を増しに至らんとして無代汽車の派立てを要求し當局之を許さざりしより群來り八十四縣は總て收穫なく就中某縣は線路に伏して動かず已むを得ず一週間だけ無代汽車を出し之にて其上避難を終りたる實情に鑑み… [illegible]

賑町の一人心中

鮮銀支店行員と詐稱登樓し 遊興費に窮して毒藥を嚥む

親は相當の地位に在り身に不足なき教育を受けながら放蕩の揚句遂に遊興を嚥んで自殺を企てたる男あり、去る十一日夜平壤賑町遊廓

靜樓に

威勢好く登樓せる廿七八歳の男は朝鮮銀行員の田中なりと稱し盛に酒食を命ずるも現金を所持し居らざる模樣なるより同樓にては念の爲め鮮銀支店の給仕に隨はれ居る仲居の息子に電話にて問ひ合せたるに田中さんと云ふ人は月給二百圓近くを取つて居ると云ふ返事に稍安心はせるも何となく擧動怪しきより餘計な酒食は出さず小婢を

敵娼こ

して遊ばせたるに翌日は使ひを四方に走らせて金策に苦心せる樣子にて其夜も流連せしが十三日朝何やら頻りに唸る聲に小婢が眼を覺ませば遂は如何に男は何か毒藥を嚥みしと見え四苦八苦して部屋中のたくり廻る物凄さに魂も身に添はず樓內の大騷ぎになり警官醫師等ふが如く仲居部屋へ斯くと告げ忽ち駈け付け取調べの結果劑酸銀を多量に嚥下せるものと判明し直に應急手當を施したるも生命危篤なり

鮮銀の

田中なりと稱したるは眞赤な嘘にて某官署の雇員本人が二十歳前後より親を勸め父なる人は某學校の教諭を奉職し居れるが彼は廿歳前後より酒色に身を過り是迄親父の勘氣に觸れたること一再にあらず最近にては親の金も自由にならず固より薄給の身の忽ち借金にて首も廻らぬ破目に陷りたるより自棄自棄となり覺悟を極めて何處よりか硝酸銀を購入し之を懷中し僞名して登樓したるも一度は死ぬ

愈今日正午

金吾丸子勇躍すれ共 桃葉依然として首位

第二回豫選締切は

旋風を卷き起した混戰

餘裕綽々依然として桃葉陣頭に立てば金吾丸子決然勇躍して其跡を追ひ千代吉擢いて一躍三位を犯し第二回豫選締切時間を除す混亂戰爆は豫想だも數し難き觀を呈するに到つた。

十美人投票

第十六回開票

九月十四日正午迄

三三八六六票	新芳本	桃葉
二五二六票	中泉家	金吾
二四五二票	東○丸	丸子
一九八四票	京いちゃ	多美三
一六五四票	京花柳	伊達清
一三九八票	京高砂	照葉
一一一一票	新文の家	鶴千代
一○九九票	新千代の家	千代吉
一○一四票	京菊水	成駒
六九九票	中布袋家	國龍

十美人投票十六回開票

成金の家庭に纏はる犯罪の謎の鍵

一記者の閻魔帖より

謂はゞ世上の犧牲となつた中林家の醜狀

(終)

長谷川下宿屋の鑑定書の一件から足がついた夫人臨枝の秘密は遂に暴露し盡した中林家に一騒亂を惹き起して前記の如く園枝は表面離婚と稱して一時府内の某所に身を潜めねばならなかつた。一方清水は夫れやこれやで長谷川にも居憎くなり七月四日頃引拂ひの

不二屋

と云ふ旅館に引き移つたのである。不二屋へ移つてからの清水は園枝が前記の如き身に陷つた關係上全く中林家からの補助を受ける譯にも行かず丸の擧で呼吸をして居たに過ぎない不二屋の女主人が往訪の記者に語る所に依ると其日の煙草錢にも不自由した相である

御先真

を極め込んで居る家の者の始と毎日の如く電話の條に出で來て

園枝さ

清水が最後に會合したのは十一日の午後三時頃で

人目の

ない處を選んで密會して居つた事實は既に警察が認めて居る。本町警察署が日本銀行長崎支店の拐帶犯人の嫌疑者として清水に眼星を付けたのは其前後であつて遲早くもそれと感付いた清水は七月十二日の朝前記の如く仁川に行くと稱して風を食らつて釜山に高飛びし十四日釜山に到つた事は總て本紙既報の如くで潜伏中釜山署の手に逮捕さるゝに依つて

逮捕さ

れ警察部の取調べを受けて十六日の關釜聯絡船で犯罪發生地の長崎所轄警察署に向つて護送され目下は同地方裁判所檢事局の手に依つて審理に附せられて居る一方園枝は前記の如く府內の某所に身を潜めて單に其の職人を介して復緣を迫る處あつたが頑固一徹な助右衛門氏は頑として耳を藉さない家に對して飽くまで平靜に過したるに[illegible]本職の罪を謝さねばならぬ(完)

假面の

南山公園廣前の共同ベンチに其の後十個の金を持つて居ると云ふ十二日の午前前記の如く仁川へ行くと稱して突然不二屋を出た清水は南大門驛を避けて龍山から列車に乘り込んで其夜の中に釜山に到着して居るが京城府町の某旅館に轉がり込んだ其翌日即ち十三日の正午頃釜山署の某刑事の手に依つて復歸して居る筈であつて與太者王丸は再び仁川の家に歸つて助右衛門氏の職業を一身に纏めて居る。

成金と云ふ語は或意味に於て必ず立身出世の美字には選びない。然し乍ら最近の世上は此成金なる語を一つの冷笑的意味に於て使用せられて居ると言ふ事は世上に傳へられる所謂成金の家庭に纏はる醜聲の總てがこれを

保證し

て居るものと謂はねばならぬ。記者は閻魔帳の頁を閉ずるに當り世上往々にして傳へられたる所謂此種成金の家庭内に於ける醜聲を叙し盡したる醜状一班が偶々十萬圓拐帶犯人の逮捕が導火線となり謂はば犧牲となつた中林

水溜に溺死體

泥醉の結果か

去る十一日午後三時頃府内南山町七十五番地先なる菜畑水溜中に一名の鮮人が溺死し居るを通り掛りの同町一の四石口武夫が發見し直に花園町派出所に屆け出でたるより警部補立ち會ひの上檢視したるに南山町百七十六番地石工朴仁植(三)なること判明せるが該水溜は畑中の路傍に在る深さ一間位のものにして前後の模樣より察するに泥醉して歸宅中誤つて陷れるものらしく死體は妹朴氏に引渡さる

金庫を擔いで

本籍京城府光熙町一丁目四十八番地無職李某(三)は假名を李萬石と稱し本籍前科三犯の曲者なるが本月一日午前九時半頃府内黄金町一五一魚商坂口角三方の家人が熟睡せる隙に乘じて家宅内に侵入し店頭の四疊半に在りし金庫を擔んで逃走中を取押さへられたるが該金庫內には現金二圓在中せるのみなりしと

九月二十日正午 二十二日本紙上に發表

蝶々會女優の町廻り姿

右より艶子・玉江・房子・由美子・照子

第二回豫選副賞

十一位以下に贈す

優美極上懷中鏡壹個宛(各五名) 三越吳服店

朝鮮人參箱入 (同) 津村兄弟商會

極上別染服紗 同 三中井吳服店

豫告

第二回豫選締切 九月十五日正午

最後決勝締切

日日相談

女學生と博士

社會改造と云ふ流行物を仕入れて近々朝鮮に渡つて來られた某博士が京城高等女學校で一夕の講演を試みられた時のことであつた。博士が例の小鬚を捻上に運ばれると、何百人かの女學生が時計仕掛けの如くに叮嚀なお叩頭をした。

博士が米國仕込みの輕快な口調で話し出された。

金策に

腐心し十三日迄の約束にて辛うじて工面は出來たのが遂になつて遊興四十八圓の

開業披露

京城府本町一丁目四十八番地(假事務所)

結婚媒介業

日鮮高砂社

御希望の方へ御一報次第規則書御送付可申候

婦人に告白

一、ふとん綿は實質の良いのを御買いなさい

一、實質の鑑定は素人にできませんから責任ある會社製品を御買求め下さい

一、實質の良いものには素人見の惡いものが多いのです

一、素人見を飾りたるものに耐久力ある實質の善良なるもの少なきは一般に認識して居ります

論より證據 李王家及官衙には

吾社の綿を實揚御買上になつて居ります

一ふとん綿は左の商標を精査の上御進めします

商標 富士、鷹、日の出、松竹、梅、天地人

朝鮮製綿株式會社

京城生命保險同業會

小說 判官照手姫 旭亭桜山口演 (七十三)

老婆の悲壯な最期

太「アヽ何んだ、年老いた婆さまを一人此様な山の中へ残して、誰が何う處へ行くものか、ナア三人の衆然うではないか」兵「成程是れは道理千萬、年老いた者を一人山中へ残して行かれまい、婆さま折角だが、諦めなされた方が宜しうござらう」芳「左様でございますか、私は是程好い時はないと思ひますが、小供同様の太郎めが聞き分けのないには誠にハヤ困りましてございます、コレ太郎、お前が此の婆を……

……で出して顔を振ります、見兼ねまして兵「アヽ然らば無理に連れて行かうとは云はぬから泣くな〳〵、芳江殿甚だ不躾の事ではあるが、御身の實家は何方でございますな」芳「河内の杉本村杉本左衞門といふが私の出ました家でございます、お聞き及びでもございませうが、例の杉本佐兵衞、人を泣かせる事に妙を得たと申すので世間から泣方の佐兵衞と呼ばれましたアレも私の遠い血縁でございます、只今でも河内へ參りましたら、幾分か其の血族が殘つて居らうと存じます」兵「然らば我々三人先づ河内の杉本村へ罷り越し、幸ひ血族の者あらば此の方々に此山迄お迎へに參るやう計らひ申さう、先づ其れまでは太郎殿を手許へお置きなさるが宜しい」芳「左様でございますか、其れでは御言葉に從ひ、然ういふ事に致しませう、どうかモウ暫く三日許り逗留下さるやう、私も何となく此方に御別れ申すが名殘惜しう存じます」斯て三人は尚ほ三日許……

……ないと申すは、如何にも殘酷の事と私の身を案じて太郎が旅立ちした……

……のでございませう